

令和 8 年度 三次市立八次小学校 研究推進

主体的・対話的で深い学びのある授業づくり

～学級経営を基盤に、他者との対話から思考を深める児童の育成～

本校の研究内容

①誰もが安心して過ごせる学級づくり

- 集団で話し合い、合意形成を図る学級活動の充実

②他者との対話を取り入れた算数科の授業づくり

- 対話のルーブリックを活用した「きく（聴く・訊く・効く・利く）」力の育成
- 児童の思考が深まるICTの効果的な活用

③ICTを活用した校内研修の改善

- 対話の文字起こし・動画による客観的分析
- 生成AIを活用した対話の質の評価
- 「対話のルーブリック」の継続的改善

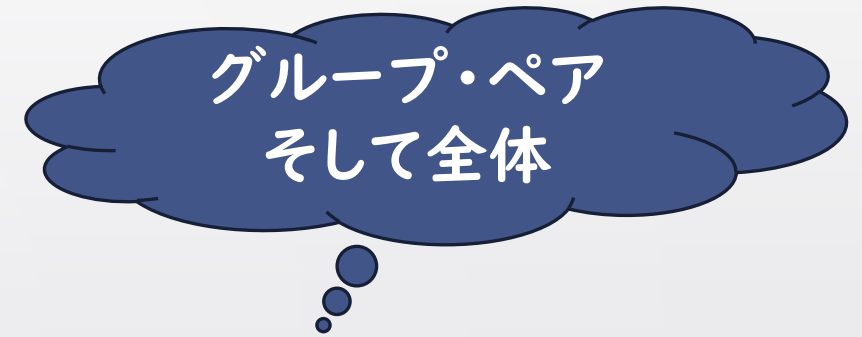
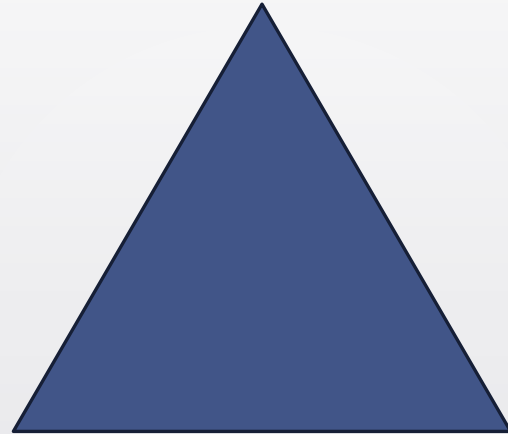


他者との対話について

3つの「対話」

対象世界（教材）との対話

自己との対話



他者との対話

(3つの対話を通して) 学習者自身が対象に対してもっている意味や、学習者自身がもっている既存の知識や経験と対象との関係性の編み直しを繰り返す「主体的・対話的で深い学び」から再構成された知識や認識は長期記憶に残る

「他者」とは

- **情報を提供する話し手**としての「他者」

相手に新たな情報や発想、知的葛藤を与える

- **ともに知識を構築する相手**としての「他者」

多様な知識を関連づけ、統合する過程をより導きやすくする

- **能動的な聴き手**としての「他者」

相手に対して、さらに精緻な説明を促す

相手に対して、伝える内容を意識的に工夫するようになる

聴き手が
話し手を育てる

「対話」とは ~会話・議論・討議ではなく~

「数学的な」対話とするためには？

対話とは

- 相手を理解し、共感して繋がることとなり、自分の考えを述べるよりも**相手**の**見ているものや感じていることを受け取る**ことが重要になる
- 「話すこと」よりも「聴くこと」が重視され、ただ「聴く」だけではなく、**能動的**に相手の話を「**聴きに行く**」という意味が含まれる

「聴き合い・訊き合う」ことを大切にする

教職員用ルーブリック

めざす児童の姿

【考えが変わる・広がる・深まる】
 「やっぱりこっちの考え方がいいかも。」
 「自分の考えはこれでよさそうだ。」
 「そういう考え方もあるんだね。」

観点 レベル	きく	見方- 考え方	伝える
4	【具体を問う】 「〇〇っていうこと？」 「なんでそう考えたの？」	○ (ふれて いる)	【詳しく話す】 「つまり、～。」「例えば、～。」 「もし～だったら、・・・。」 「ここまでいい？」 「〇〇は同じだけど、△△は違うね。」 (相手の反応を見ながら説明)
3	【質問】 【受け入れる】 「どういうこと？」 「たしかに。」 「なぜ？」 「なるほど。」		【理由を言う】 「わけは、～からです。」 「一つ目は、・・・。二つ目は、・・・。」 (具体物を操作しながら・指さしながら)
2	【聞き返す】 「もう一度言って(説明して)?」 「よく分からない。」	× (ふれて いない)	【自分の意見を言う】 「私は、～だと思います。」 「やっぱり～と思うよ。」
1	【反応する】 (相手の発言に対して表情で反応) 「うんうん」		【自分と比べる】 「同じです。/違います。」 「にっています。」
0	聞けない 聞かない		伝えられない 応えていない

【構え】

相手を見る・体向ける
 学級内の人間関係づくり・支持的風土(心理的安全性)

たいわ たつじん 対話の達人

【考えが変わる・広がる・深まる】

「やっぱりこっちの考え方がいいかも。」
 「自分の考えはこれでよさそうだ。」

「そういう考え方もあるんだね。」
 「こうしたらもっとよくなりそうだ。」

レベル 4	ぐたいてき 【具体的にきく】 「つまり、〇〇っていうこと？」 「なんでそう考えたの？」	きた たつじん きき方の達人
レベル 3	しつもん 【質問】 「どういうこと?」「なんで?」 うい 【受け入れる】 「たしかに。」「なるほど。」	
レベル 2	かえ 【きき返す】 「ここがよく分からない。」 いちどい 「もう一度言って?」	
レベル 1	はんのう 【反応する】 「うんうん。」 ひょうじょう はんのう 「うなずく。(表情で反応)」	

レベル 4	くわ はな 【詳しく話す】 「例えば、～。」 「ここまでいい?」 「つまり、～。」 「もし～だったら、・・・。」 「〇〇は同じだけど、△△は違うね。」	はな きた たつじん 話し方の達人
レベル 3	りゆう い 【理由を言う】 「わけは、〇〇だからです。」 「一つ目は、・・・。二つ目は、・・・。」 (物やタブレットを操作しながら・指さしながら)	
レベル 2	じぶん いけん い 【自分の意見を言う】 「私は、〇〇だと思います。」 「やっぱり〇〇じゃない?」	
レベル 1	じぶん くら 【自分と比べる】 「同じです。」 「違います。」 「似ています。」	



数学的な見方・考え方について

算数科の目標（平成29年公示 小学校学習指導要領）

総括目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものであることから、児童生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることこそ、教師の専門性が発揮されることが求められる（小学校学習指導要領解説総則編）

数学的な見方・考え方の育成の意義

「数学的な見方・考え方」は、算数の学習の中で働かせるだけではなく、大人になって生活していくに当たっても重要な働きをするものとなる。算数の学びの中で鍛えられた見方・考え方を働かせながら、世の中の様々な物事を理解し思考し、よりよい社会や自らの人生を創り出していくことが期待される

(小学校学習指導要領解説算数編)

数学的な見方・考え方とは

- 数学的な見方

解決の方向性（着眼点）

事象を数量や図形及びそれらの関係についての概念等に着目して，その特徴や本質を捉えること

- 数学的な考え方

考えを高めたり、まとめたりする視点

目的に応じて図，数，式，表，グラフ等を活用し，根拠を基に筋道を立てて考え，問題解決の過程を振り返るなどして既習の知識及び技能等を関連付けながら統合的・発展的に考えること

文部科学省（2018）「小学校学習指導要領解説算数編」

八次小学校の取組と関連させると…

他者との関わりの中で、算数科の見方・考え方を働かせながら、思考を深める

視点1 子供たちが本時に働かせるべき「見方・考え方」は、明確であったか

視点2 子供たちに「見方・考え方」を働かせることができるような、学習活動を設定することはできたか

視点3 子供たちが働かせていた「見方・考え方」を可視化する（板書・口頭等）ことはできたか。

八次小学校 指導案(本時案)

過程	学習活動	指導上の留意事項・ICTの利活用	評価規準および判断基準(方法) 【見方・考え方】
つかむ	1 問題をつかむ。		
	数学的な見方・考え方を働かせ、資質・能力を育成するために、ICTを効果的に利活用する。		本時で働かせたい数学的な見方・考え方を明記する。
	2 課題を設定する。		
			【見方・考え方】 ・(例) 時間か道のりのどちらかを揃えると速さを比べられる。 (ソロエ)
	3 見通しをもつ。		
学び合う	4 課題を解決する。		
		対話の必然性のある問題・課題を提示し、対話の場面を意図的に設定する。	
まとめる	5 まとめをする。		
			B : 【観点】(評価方法) 手立て :
	6 適応題に取り組む。		
			手立ては上記のBに達するための支援を明記。
ふいかえる	7 振り返りをする。		
		振り返りを書く時間を確保するために時間配分に留意して授業を展開する。	



学級づくりについて

学習の基盤づくり ～学級活動と学級経営～

学級活動における自発的、自治的な活動は、**学級経営の充実に資する**ものであるとともに、学校生活の基盤づくりや、互いを尊重し合う人間関係など教科等におけるグループ学習等の**協働的な学習の基盤づくりに貢献する重要な役割を担って**おり、発達支持的生徒指導と重なるものと言えます（生徒指導提要 p.61）

- 学級活動(1)は、児童生徒が学級、学校生活の充実向上のために話し合い、集団としてよりよく合意形成を図って実践する活動
- 学級活動(2)及び(3)は、一人一人の児童生徒が学級、学校における生活や学習などの自己の生活上の課題に気付き、学級での話し合いを生かして、自分の課題に合った解決方法や実践方法などを意思決定して実践する活動

学習基盤の充実

- 学級活動の充実

学級活動(1): 児童生徒が学級、学校生活の充実向上のために話し合い、集団としてよりよく合意形成を図って実践する活動

- 学習規範の見直し

徐々に脱却していく

「同じです。」「いいです。」「分かりました。」

学級のルールの一貫性(学習規律・八次小のきまり)

- ファシリテーターとしての教師の動き

教師が話しすぎない、引っ張りすぎない

児童の思考の流れを整理する役割→発問につなげていく